

## 2013 年度第 9 回研修委員会議事録

- 日 時 : 2013 年 12 月 2 日 (月) 14 : 30 ~ 17 : 00  
場 所 : 中央大学 市ヶ谷田町キャンパス 大会議室  
出席者 : 山田雅子 (慶應義塾大学)・藤原明子 (早稲田大学)・南川真貴子 (中央大学)・佐々木俊介 (桜美林大学)・杉谷美和 (明治大学)・金万智昭 (専修大学)・恒次知美 (専修大学)  
欠席者 : 伊原千秋 (中央大学)  
議長 : 山田雅子 (委員長)  
記録 : 恒次知美 (専修大学)  
配布資料 : ① 2013 年度第 9 回研修委員会 議事次第 (委員長作成)  
② 2013 年度私図協研修会参加者一覧 (事務局作成)  
③ 2013 年度私図協研修会収支報告案 (事務局作成)  
④ 2013 年度私図協研修会アンケート集計結果 (事務局作成)  
⑤ 2013 年度私図協研修会 twitter 等最新情報 (事務局作成)  
⑥ 2013 年度私図協研修会后問い合わせ (事務局作成)  
⑦ 2013 年度私図協研修会振り返り (委員長作成)  
⑧ 2013 年度私図協研修会振り返り (藤原委員作成)  
⑨ 2013 年度私図協研修会振り返り (南川委員作成)  
⑩ 2013 年度私図協研修会振り返り (佐々木委員作成)  
⑪ 2013 年度私図協研修会振り返り (杉谷委員作成)  
⑫ 2013 年度私図協研修会振り返り (金万委員作成)  
⑬ 2013 年度私図協研修会振り返り (恒次作成)  
⑭ 「図書館ポスター総選挙」企画案 (読書プロジェクト作成)

### 議 事

#### 1. 2013 年度研修会 報告

##### 1.1. 研修会について

事務局より、研修会の報告がなされた。募集時の参加申込み者数は 69 大学 75 名であったが、謝絶およびキャンセルの結果最終的な参加者数は 62 大学 64 名であった。今回は研修会内容や会場等の制約から研修会として謝絶を行ったため、応募受付数はそれ以上となる。この応募受付数を数字としては取っておく必要があるという意見が出された。

また、アンケート集計結果については、誤字を修正し講演者へ送ることが決定された。収支結果については、昨年度と若干フォーマットを変更したものを事務局より提示したが、特に修正等の意見はなかった。

##### 1.2. 事後対応について

参加者より問い合わせがメールで事務局に寄せられた。問い合わせ内容とその回答は以下の通り。

- ・ 「作成物の POP について個別講評がないのか」  
→POP についての講評は当日行ったもののみであり、サイトへの追加講評の掲載等は考えておりません。
- ・ 「ポスター展示についてのサイト公開はどうなっているのか」  
→現在、サイト掲載に向けて出展者への許諾取得など準備を進めている段階です。しばらくお待ちください。

- ・ 「事務局の Twitter 公式アカウントなどはないのか」  
→事務局の Twitter 公式アカウントは作成しておりません。

#### 1.2.1. ポスター展示について

ポスター展示については、2013年12月2日時点で11校より回答をいただいた。残りの出展者については、締め切りまで待った後、確認のメールを再度入れることとなった。また、公開期間は3月末までとし、その後は取り下げる、参加者のみへの公開ということなどでパスワードをかけることなどが決定された。

#### 1.2.2. 作成した POP について

佐々木委員の方から研修会で作成した POP についての報告がなされた。

桜美林大学に実際掲示した POP は年内掲示予定となる。これらについて、実際の掲示写真を Twitter で公開している。また、今回お手伝いいただいた桜美林大学読書プロジェクトの Twitter アカウント、および Facebook アカウントでも公開予定だということが報告された。

その他、新しい企画「図書館ポスター総選挙」を検討中であり、12月中旬を目処に集計方法の検討などを読書プロジェクトの学生が行っていることが報告された。

実際の効果として、ポスターを見て普段図書館を使わない学生が何人か図書館に来訪したことも報告された。

これらについては、ポスター展示のサイト公開のお知らせメールと同時に参加者へ連絡することが決定された。

### 1.3. 振り返りについて

#### 1.3.1. 各委員からの振り返り

各自、振り返りを文書にまとめたものを用意し報告した。

- ・ 会場校担当者はポスター掲示場所の学内調整や、学生ボランティアの募集、および彼らへの説明が大変だった
- ・ 参加者から会場校宛に個別に届いた感想はとても評判が良かった
- ・ POP の作成について、事務局が用意できた備品に限りがあったことから、今回の研修内容や会場設備・備品についてはあらかじめ参加者に伝えておき、必要であれば持ってきてもらうなどの協力をお願いしても良かった。
- ・ 非常時のアナウンスを先に行っておくべきだった
- ・ もう少し、時間等で明確に区切ったほうが、各グループがもっと学生と交流できて良かったのではないか
- ・ Twitter 等はやって良かったと思う。学生が参加する際に、意見を言いやすいツールとして Twitter を採用したため、公式アカウントをあえて作らなかった。その後参加者にも公開することにしたが、やはり参加者の利用が少なかったため、そういう意味では事務局もう少し運用を考えても良かった。
- ・ 今後 Twitter を継続して利用するかどうかは、来年のテーマによって決めていけばいいと思う。
- ・ 今後、研修会の報告としてサイトに掲載するのは開催通知、配布資料、プログラム、講演資料（仁上先生のみ）とする。こちらについては、山田委員長より講演者に確認をとってもらおう。
- ・ 2年続けてワークショップを開催し、最終的にはうまくいき参加者からの評判も良かった。だが、次年度以降も引き続きワークショップの形態が続けられるかどうか、不安な面もある。同様の形式をとるのであれば、図書館支援機構に相談するという案を次年度委員に提案してもよい。

- ・ 本年度は事務局が二人体制であったが、本来は1名であることを認識しておく必要がある。仕事の配分の際にはその点を留意すべき。

## 2. その他

### 2.1. 次年度研修会会場校について

次年度の研修会は早稲田大学で開催となる。

### 2.2. 次年度研修委員について

次年度の研修委員について、常任委員については例年1月～2月に次年度の委員を事務局へ連絡することとなる。次年度は桜美林大学が抜けるため、代わりに委員となる大学については、運営を確認を行う。

### 2.3. 次回研修委員会の日程について

今回は慶応大学で3月に開催予定となる。その際は次年度研修委員も参加となる。

以 上